兵庫医科大学

2027 年度
麻酔科専門研修プログラム

1. 専門医制度の理念と専門医の使命 P.1
2. 専門研修プログラムの概要と特徴 P.1
3. 専門研修プログラムの運営方針 P.1-2
4. 研修施設の指導体制と前年度麻酔科管理症例数 P.3-12
5. 専攻医の採用方法と問い合わせ先 P.16
6. 麻酔科医資格取得のために研修中に修めるべき知識・技能・態度 P.16
7. 専門研修方法 P.17
8. 専門研修中の年次毎の知識・技能・態度の修練プロセス P.17
9. 専門研修の評価（自己評価と他者評価） P.18
10. 専門研修プログラムの修了要件 P.19
11. 専攻医による専門研修指導医および研修プログラムに対する評価 P.19
12. 専門研修の休止と中止，研修プログラムの移動 P.19
13. 地域医療への対応 P.20
14. 専攻医の就業環境の整備機能（労務管理） P.20

1. 専門医制度の理念と専門医の使命

① 麻酔科専門医制度の理念

麻酔科専門医制度は，周術期の患者の生体管理を中心としながら，救急医療や集中治療における生体管理，種々の疾病および手術を起因とする疼痛・緩和医療などの領域において，患者の命を守り，安全で快適な医療を提供できる麻酔科専門医を育成することで，国民の健康・福祉の増進に貢献する．

② 麻酔科専門医の使命

麻酔科学とは，人間が生存し続けるために必要な呼吸器・循環器等の諸条件を整え，生体の侵襲行為である手術が可能なように管理する生体管理医学である．麻酔科専門医は，国民が安心して手術を受けられるように，手術中の麻酔管理のみならず，術前・術中・術後の患者の全身状態を良好に維持・管理するために細心の注意を払って診療を行う，患者の安全の最後の砦となる全身管理のスペシャリストである．同時に，関連分野である集中治療や緩和医療，ペインクリニック，救急医療の分野でも，生体管理学の知識と患者の全身管理の技能を生かし，国民のニーズに応じた高度医療を安全に提供する役割を担う．

2. 専門研修プログラムの概要と特徴

本研修プログラムでは，専攻医が整備指針に定められた麻酔科研修の到達目標を達成できる専攻医教育を提供し，十分な知識・技術・態度を備えた麻酔科専門医を育成する．

麻酔科専門研修プログラム全般に共通する研修内容の特徴などは別途資料**麻酔科専攻医研修マニュアル**に記されている．

兵庫医科大学病院をはじめとする連携施設群において、麻酔の基本を学ぶことはもちろん、小児症例、ハイリスク症例、稀な症例の麻酔管理をバランスよく学ぶことができ、かつ集中治療、ペインクリニック、緩和ケアから地域医療再生の研究まで、幅広い研修が可能である。臨床に極めて強い麻酔科研修を行えることが最大の特徴である。

3. 専門研修プログラムの運営方針

- 研修の前半2年間のうち少なくとも1年間、後半2年間のうち少なくとも6か月は専門研修基幹施設で研修を行う．
- 研修内容・進行状況に配慮して，プログラムに所属する全ての専攻医が経験目標に必要な特殊麻酔症例数を達成できるように，ローテーションを構築する．

- すべての領域を満遍なく回るローテーションを基本とするが，小児診療を中心に学びたい者へのローテーション（後述のローテーション例B)，ペインクリニックを学びたい者へのローテーション（ローテーション例C)，集中治療を中心に学びたい者へのローテーション（ローテーション例D）など，専攻医のキャリアプランに合わせたローテーションも考慮する.

研修実施計画例

	A（標準）	B（小児）	C(ペイン）	D（集中治療）
初年度前期	兵庫医大病院	兵庫医大病院	兵庫医大病院	兵庫医大病院
初年度後期	兵庫医大病院	兵庫医大病院	兵庫医大病院	兵庫医大病院
２年度前期	宝塚市立病院	明和病院	兵庫医大病院	川西市立総合医療センター
２年度後期	宝塚市立病院	明和病院	兵庫医大病院（ペイン，緩和ケア）	川西市立総合医療センター
３年度前期	兵庫医大病院	兵庫医大病院	明和病院	兵庫医大病院（集中治療）
３年度後期	兵庫医大病院	兵庫医大病院（集中治療）	明和病院	兵庫医大病院（集中治療）
４年度前期	箕面市立病院	兵庫県立こども病院	兵庫医大病院（集中治療）	宝塚市立病院
４年度後期	箕面市立病院	兵庫県立こども病院	兵庫医大病院（ペイン，緩和ケア）	宝塚市立病院

週間予定表

本院麻酔ローテーションの例

	月	火	水	木	金	土	日
午前	手術室	手術室	手術室	休み	手術室	手術室	休み
午後	手術室	手術室	手術室	休み	手術室	休み	休み
当直			当直				

4. 研修施設の指導体制と前年度麻酔科管理症例数

① 専門研修基幹施設

兵庫医科大学病院（以下、兵庫医大病院）

研修プログラム統括責任者：植木 隆介

専門研修指導医：狩谷 伸享 （麻酔，産科麻酔，緩和医療）
髙雄 由美子（麻酔，ペインクリニック，疼痛治療全般）
植木 隆介（麻酔，心臓麻酔，術後疼痛）
竹田 健太（麻酔，集中治療）
井手 岳 （麻酔，集中治療）
奥谷 博愛（麻酔，ペインクリニック, 心臓麻酔）
田口 真奈（麻酔，集中治療）
藤本 幸一（麻酔，集中治療）
岡本 拓磨（麻酔，小児麻酔，心臓麻酔，集中治療）
緒方 洪貴（麻酔，ペインクリニック）
佐藤 史弥（麻酔，ペインクリニック，小児麻酔）
宮本 和徳（麻酔，小児麻酔，ペインクリニック）
大場 祥平（麻酔、小児麻酔）
城戸 茜 （麻酔，集中治療）
尾下 幸子（麻酔，心臓麻酔）
濱中 優花（麻酔一般）
池垣 友康（麻酔，ペインクリニック, 心臓麻酔）

麻酔科認定病院番号 85

特徴：麻酔科管理症例は緊急症例を除き、全例麻酔科術前外来受診を行う。安全かつ効率的な手術室運営を構築し、麻酔科管理症例数は全国でもトップレベルである。また、大学病院の特性から、極めてまれな症例、ハイリスク症例など特殊な麻酔管理も行われ、貴重な症例は学会で報告し、臨床麻酔のレベルアップに貢献している。基礎的な手技ひとつひとつを丁寧に指導し、特に気道確保のトレーニングは豊富なデバイス資源を元にプロならではの領域を目指す。各科との協力体制も良好で、手術室の支柱としてコミュニケーション能力には定評がある。高機能シミュレーターによるトレーニングも可能である。また、大学院博士課程専攻、ペイン，緩和ケア、集中治療のローテーションなどのプログラムを構築することができ、各専攻医の目標に沿った研修を計画する。育児中の女性医師の教育支援体制を構築中であり、麻酔科医としての成長と両立する道を探る。

前年度麻酔科管理症例数(2025年度)

麻酔科管理全症例数：6124例

小児（6歳未満）の麻酔：193例

帝王切開術の麻酔：145例

心臓血管手術の麻酔：287例

胸部外科手術の麻酔：482例

脳神経外科の麻酔：318例

② 専門研修連携施設

兵庫県立こども病院（以下、こども病院）

研修実施責任者：香川　哲郎

専門研修指導医：香川　哲郎（小児麻酔）
高辻　小枝子（小児麻酔）
大西　広泰（小児麻酔）
宮本　義久（小児麻酔）
上嶋　江利（小児麻酔）
末田　彩（小児麻酔）
藤原　孝志（小児麻酔）
田中　康智（小児麻酔）
上野　真穂（小児麻酔）

麻酔科認定病院番号　93

特徴：小児・周産期医療専門病院として、一般的な小児外科症例や各科の小児症例のほか、新生児手術、小児開心術、日帰り手術、血管造影等の検査麻酔、病棟での処置麻酔、緊急帝王切開等、一般病院では扱うことが少ない症例経験が可能。

小児がん拠点病院、地域医療支援病院、小児救急救命センター。

麻酔科管理症例数					
麻酔科管理 全症例数	小児 （6 歳未満）	帝王切開術	心臓血管手術	胸部外科手術	脳神経外科
3839	1724	125	244	5	72

国立循環器病研究センター

研修実施責任者：前田琢磨

専門研修指導医：金澤裕子　（心臓麻酔、低侵襲モニタ）
前田琢磨　（心臓麻酔，血栓止血）
南　公人　（集中治療、心エコー）
下川　亮　（心臓麻酔）
月永　晶人　（心臓麻酔）
森永　將裕　（心臓麻酔）
三浦　真之介（心臓麻酔）

麻酔科病院認定番号　168

2025 年麻酔科管理全症例数	2494 症例
小児（6 歳未満）	230
帝王切開	52
心臓血管手術	1706
胸部外科	13
脳外科	564

センター手術室は 12 室であり、そのうち 4 室はハイブリッド手術室です。ロボット手術専用室や COVID 対応陰圧手術室も設置しています。特に冬は緊急大動脈解離手術が多くなります。劇症型心筋炎や心筋症増悪に対する左室補助装置装着手術も多いです。心臓移植はおよそ月 1 回程度あります。麻酔科医はスタッフ 8 名レジデント 18 名で対応しています。休日を含めた毎日、麻酔科医 2 名が当直、オンコール 1 名ですべての緊急症に対応しています。

明石市立市民病院

研修実施責任者：　板東　瑞樹

専門研修指導医：　上藤　哲郎（麻酔）
野土　伸司（麻酔）
板東　瑞樹（麻酔）

麻酔科認定病院番号　481

特徴：地域医療支援病院。外科、整形外科、泌尿器科、耳鼻科、婦人科、脳神経外科など一般的な手術麻酔症例を経験できます。年間 1900 件前後の全身麻酔症例があります。

特定医療法人 誠仁会 大久保病院

研修実施責任者：裏辻悠子
専門研修指導医：裏辻悠子
井谷基
金子宏美
麻酔科認定病院番号：1754

特徴：東播磨地域で地域密着型医療を提供している199床（手術室4室）の病院です。主に整形外科、外科、婦人科、脳神経外科の症例を経験できますが、特に整形外科は脊椎、上下肢人工関節、肩関節内視鏡手術が豊富で、各種神経ブロックも多数経験することが可能です。ペインクリニック診療も併設しているため、外来（週3回）でのエコーガイド下神経ブロック加療や服薬管理、入院による透視下神経ブロックや脊髄刺激装置埋込なども実施しています。また緩和ケア病棟があるため、緩和ケア目的のブロックや研修も可能です。

三田市民・済生会病院

研修実施責任者： 溝渕知司
専門研修指導医： 溝渕知司（麻酔）
麻酔科認定病院番号 752

特徴：地域の急性期病院として、整形外科手術、泌尿器科手術、一般外科手術の麻酔が主であり、術前術後管理を含めた麻酔の基本を学ぶ症例が多く経験できる。高齢者の麻酔も多い。神経ブロックを多くの症例で行っており、超音波ガイド下末梢神経ブロックの症例を多く研修することが可能である。また、学会発表や論文作成、臨床研究立案も経験できる。

西宮渡辺病院

研修実施責任者：山田裕樹
専門研修指導医：山田裕樹（麻酔）
志村優佳（麻酔）
播本由香利（麻酔）
麻酔科認定病院番号：１６８２

特徴：当院は病床１８０床、手術室４部屋で運用しています。病院規模自体は大きくありませんが、整形外科、消化器外科を中心に年間約１３００例程度の周術期管理を

行っています。症例は高齢者が多く、様々な併存疾患を有しているため、総合的な周術期管理を学んで頂きます。また、神経ブロックを積極的に行っており、技術の習得に適しています。毎日の手術計画は、定期手術が勤務時間内に終わるよう配慮します。ワークライフバランスのとれた研修が受けられると思います。

社会医療法人愛仁会千船病院

研修実施責任者： 角　千里

専門研修指導医： 角　千里（産科麻酔）
星野　和夫（麻酔）
嘉山　邦仁（麻酔）
大山　泰幸（麻酔）
大嶋　圭一（麻酔）
平塚　剛（麻酔）
菅野　睦（麻酔）
渡邉　真理子（麻酔）
戸尾　まゆみ（麻酔）

麻酔科認定病院番号：770

特徴：初期研修医を受け入れる初期研修医を受け入れる308床の地域の総合病院ですので、大病院では経験しにくいcommon　diseaseの待機手術や骨折や急性腹症などの緊急手術を幅広く行なっており、麻酔科医としての地力を鍛えることができます。2025年度麻酔科管理件数は4,473件/年、うち全身麻酔は2,233件/年でした。地域周産期母子医療センター、MFICU（6床)、NICU（15床)、ICU（4床）等を備え、24時間母体搬送に対応しています。分娩件数は2,600件/年と大阪府随一ですので、一般手術麻酔に加えてハイリスク妊婦を含めた帝王切開（667件/年）や無痛分娩（1,100件/年）等の産科麻酔を経験することができます。無痛分娩は麻酔科医が24時間対応し、カテーテル入れたら終わりではない質の高い鎮痛を目指しています。6ヶ月以上の期間でこれらの産科麻酔を集中的に研修する態勢も整えています。また、減量・糖尿病外科が高度肥満症麻酔の腹腔鏡下肥満手術を行っているほか、低侵襲手術支援ロボット「ダヴィンチ」が導入され、より低侵襲の手術も増加しています。

麻酔科管理全症例数：4,473
小児（6歳未満）の麻酔：28
帝王切開術の麻酔：667
心臓血管手術の麻酔：0
胸部外科手術の麻酔：11

脳神経外科の麻酔：36

社会医療法人愛仁会明石医療センター

研修実施責任者：多田羅　康章

専門研修指導医：

岡本　健志（麻酔）
多田羅　康章（麻酔、集中治療）
藤島　佳世子（麻酔）
松尾　佳代子（麻酔、産科麻酔）
小阪　真之（麻酔、集中治療）
濱崎　豊（麻酔、集中治療、心臓血管麻酔）
山崎　翔太（麻酔、心臓血管麻酔）
米田　優美（麻酔）
田中　舞（麻酔）

麻酔科認定病院番号：1166

特徴：兵庫県東播磨医療圏で急性期医療を行っている。全身麻酔に硬膜外麻酔や神経ブロックなどを併用した管理や脊髄クモ膜下麻酔を積極的に行い、区域麻酔の技術習得を目指します。また、心臓大血管外科症例を通して JB-POT ならびに米国周術期経食道心エコー資格の取得や、集中治療・産科麻酔（labor analgesia）領域の研修も可能です。

麻酔科管理症例	3444
胸部外科	124
脳神経外科	0
心臓血管外科	323
（うち 1 群 103　2 群 220）	
帝王切開	390
小児	10

宝塚市立病院

代表専門医：野間　秀樹

専門研修指導医：野間　秀樹　（麻酔）
土井　亜希子（麻酔）

麻酔科認定病院番号　364

特徴：基幹病院の兵庫医科大学を軸とし、当院は北阪神地域の市中病院として地域医療の中核を担っています。手術内容としては、胃・結腸・直腸部位の腹腔鏡下手術が多い消化器外科、呼吸器外科の胸腔鏡下手術、整形外科の脊椎手術や外傷の骨折観血的手術、脳外科の開頭手術・血管内治療や耳鼻科、皮膚科、形成外科など多岐にわたります。令和8年1月からは当院でもダ・ヴィンチを導入して泌尿器科、上部・下部消化管でのロボット手術を開始しています。大学病院と比較すると心臓血管外科もなく、重症度の低い症例がほとんどですが、専攻医の先生方が麻酔管理の件数をこなして経験値を上げて頂くためにも良い職場環境を築いていくことに努めています。麻酔方法としては全身麻酔でも特に拘らず、各症例に合わせた薬剤を使用して管理しています。その他硬膜外麻酔、脊髄くも膜下麻酔、各種エコー下ブロックなども、繰り返し自信がつくまで実践してもらっています。基本的に市中病院での仕事に興味があり、有志のある方が来ていただくと有難いです。

前年度麻酔科管理症例数(2025年度)

麻酔科管理全症例数：2452例
小児（6歳未満）の麻酔：30例
帝王切開術の麻酔：0例
心臓血管手術の麻酔：0例
胸部外科手術の麻酔：105例
脳神経外科の麻酔：73例

明和病院

専門研修指導医：竹峰　和宏（麻酔一般）
木田　樹里（麻酔一般）
立川　泰平（麻酔一般　集中治療）
麻酔科認定病院番号　709

特徴：当院では術中のみならず、患者が楽に周術期を過ごせる様に術前から周術期対策を行っている。特に術後は主科と協力しながら疼痛コントロールを勤しんでおり、評価としては悪くはない
又、主科に手術時間の適正化を求めると同時に麻酔科も麻酔導入や抜管までの時間短縮の試みを行い、手術室の効率的利用する様病院全体で取り込んでおり、働き方改革に寄り添えるよう工夫し実施している。
宗教的輸血拒否患者も受け入れてもおり、緊急手術は当然ながら無痛分娩も 24 時間対応とし、患者のニーズに答える試みは行われている

片手間ではあるが、ペインクリニックや集中治療、緩和医療など要請ある場合は主科と協力のもと行っている。

前年度麻酔科管理症例数(2025 年度)
麻酔科管理全症例数：2967 症例
小児（6 歳未満）の麻酔：85 症例
帝王切開術の麻酔：19 症例
心臓血管手術の麻酔：0 症例
胸部外科手術の麻酔：115 症例
脳神経外科の麻酔：0 症例

川西市立総合医療センター

研修実施責任者：盤井多美子
専門研修指導医：盤井多美子（麻酔、産科麻酔）
小野まゆ（麻酔、ペインクリニック）
坂野英俊（麻酔）
小澤満喜子（麻酔、集中治療）
中田由梨子（麻酔）
神崎由莉（麻酔、ペインクリニック）
神崎亮（麻酔、ペインクリニック）
山田万代（麻酔）
専門医　：谷佐季（麻酔）
西村祐希（麻酔）
専門研修指導医　計8名
麻酔科認定病院番号：2009

特徴:当院は地域の急性期医療を担う中核病院であり多くの救急患者を受け入れているため、整形外科の外傷、脊髄損傷、開頭手術などの緊急手術にかかわることができ、実戦的な経験をしっかり積むことができます。麻酔管理においては区域麻酔や伝達麻酔を積極的に用いてシームレスな疼痛管理を心がけており、一症例ごとに丁寧で患者に寄り添った周術期管理を行っています。
さらに、専門医によるペインクリニック外来では神経ブロックや漢方による治療、骨粗しょう症等の治療を行っており、院内の緩和ケアの窓口にもなっていて、周術期だけではなく慢性疼痛や緩和ケアなど幅広く学ぶことができます。
また兵庫県で数少ない麻酔科主導の無痛分娩を行っている施設でもあり、周産期医療へのかかわりも深く、産科麻酔の経験も豊富に積むことができます。

小さい子どものいる医師も多く、みんなで支えあい協力しながら楽しく働いています。とてもアットホームな雰囲気で、気軽に相談しながら成長できる働きやすい環境です。

大阪母子医療センター

研修実施責任者：　竹下　淳（小児・産科麻酔）
専門研修指導医：　竹下　淳（小児・産科麻酔）
川村　篤（小児集中治療）
濱場　啓史（小児・産科麻酔）
増茂　薫（小児・産科麻酔）
阪上　愛（小児・産科麻酔）
西垣　厚（小児集中治療）
専門医：　征矢　尚美　（小児・産科麻酔）
栗畑 綾香　（小児・産科麻酔）
佐伯 淳人　（小児・産科麻酔）
井川 大輝　（小児・産科麻酔）
麻酔科認定病院番号：第260号

特徴：小児麻酔と産科麻酔に関連するあらゆる疾患を対象とし、専門性の高い麻酔管理を安全に行っている。代表的な疾患として、胆道閉鎖症、胃食道逆流症、横隔膜ヘルニア、消化管閉鎖症、固形腫瘍（小児外科)、先天性水頭症、もやもや病、狭頭症、脳腫瘍、脊髄髄膜瘤（脳神経外科)、複雑心奇形（心臓血管外科・小児循環器科)、口唇口蓋裂（口腔外科)、小耳症、母斑、多合指(趾)症（形成外科)、分娩麻痺、骨欠損、多合指(趾)症、膀胱尿管逆流症、尿道下裂、総排泄腔遺残症（泌尿器科)、斜視、未熟児網膜症（眼科)、中耳炎、気道狭窄、扁桃炎（耳鼻科)、白血病、悪性腫瘍（血液・腫瘍科)、帝王切開、無痛分娩、双胎間輸血症候群（産科）などがある。さらに、小児では消化管内視鏡検査や血管透視、MRIなどの検査の麻酔・鎮静も、麻酔科医が行っている。

JCHO神戸中央病院

研修プログラム統括責任者：　藤本　俊一
専門研修指導医：藤本　俊一（麻酔）
冨田　麻実（麻酔）
赤井　亮介（麻酔）
安本　和正（麻酔）
麻酔科認定病院番号：第2072号

当院は神戸市北区に位置する地域中核病院であり、内科系・外科系ともに幅広い診療科を有している。外科、整形外科を中心に、耳鼻咽喉科、歯科口腔外科、脳神経外科、泌尿器科、婦人科など多領域にわたる手術に対応しており、地域医療における周術期管理を担っている。

2025 年度の手術症例数は 1,782 例、麻酔科管理症例数は 1,291 例、全身麻酔症例は 1,268 例である。症例は一般外科および整形外科を中心としたコモン症例が主体である一方、高齢者や複数の併存疾患を有する症例も多く、周術期管理能力が求められる環境である。産科および心臓血管外科の診療科は設置されておらず、極端な超高リスク緊急症例は限定的である。

麻酔科には常勤医 4 名が在籍し、専門医による指導体制のもとで診療を行っている。緊急手術を除き全例で術前外来を実施し、術前評価の標準化を図っている。術後は毎日疼痛ラウンドを行い、周術期の疼痛管理に継続的に関与している。また、術後疼痛管理チームとして、疼痛コントロールに難渋する症例へのコンサルテーション体制を整備している。

ハイリスク症例に対しては、外科医および手術室看護師を含めたカンファレンスを実施し、術前からリスク評価と対策の共有を行っている。多職種連携のもと、安全性を重視した周術期管理を行っている。

教育面では、専門医の指導のもと、基本的な全身麻酔管理に加え、硬膜外麻酔や末梢神経ブロックなどの区域麻酔を含めた手技を幅広く経験できる。日中の緊急手術を積極的に担当することで、緊急手術対応能力の早期習得を図っている。専攻医初年度においては必ず指導医によるバックアップ体制を確保している。

福井大学医学部附属病院

研修プログラム統括責任者：松木悠佳

専門研修指導医：松木悠佳（麻酔，集中治療，ペインクリニック）
長田　理（麻酔）
次田佳代（麻酔）
松田修子（麻酔, ペインクリニック）
安間記世（麻酔）
藤岡沙織（麻酔）
宗石啓和（麻酔）
片岡　澪（麻酔）
伊藤彰仁（麻酔）
田中克弥（麻酔）

麻酔科認定病院番号：303

特徴：心血管手術麻酔，集中治療,ペインクリニックのローテーション可能

麻酔科管理症例数：　　3834 症例
小児（6 歳未満）の麻酔 90 症例
帝王切開術の麻酔 134 症例
心臓血管手術の麻酔（胸部大動脈手術を含む）160 症例
胸部外科手術の麻酔 211 症例
脳神経外科手術の麻酔 142 症例

日本生命済生会日本生命病院（以下　日本生命病院）

研修実施責任者：花田　留美
専門研修指導医：花田　留美（麻酔・ペインクリニック・緩和医療）
玉井　裕（麻酔・緩和医療）
藤原　優子（麻酔）
日野　未来（麻酔・緩和医療）
博多　紗綾（麻酔・ペインクリニック・緩和医療）
清水　梨江（麻酔、ペインクリニック）
津村　八江（麻酔）
森本　正昭（麻酔）
麻酔科学会認定病院番号：21400569
ペインクリニック学会指定研修施設認定番号：2018006
緩和医療学会 認定研修施設認定番号：20222089

特徴：日本生命病院は、婦人科腹腔鏡が全国有数の手術数を誇るため、麻酔に関しても婦人科関連のものが多いが、その他の外科に関しても呼吸器外科、血管外科も有しており、緊急手術を含め、同規模の病院と同程度の一般的な手術麻酔の研修が可能である。また、手術麻酔のみならず、ペインクリニック診療　（外来診療、透視下ブロックなど）の研修も可能であり、指定研修施設であるためペインクリニック学会専門医取得を目指すこともできる。緩和医療においては緩和ケアチームの一員として、身体症状に関して直接介入型の緩和ケア研修が可能であり、緩和ケアチーム介入症例数も多いため、将来的に緩和医療学会の認定医取得も可能である。

前年度麻酔科管理症例数(2025年度)

麻酔科管理全症例数：2101例
小児（6歳未満）の麻酔：2例
帝王切開術の麻酔：36例

心臓血管手術の麻酔：32例
胸部外科手術の麻酔：87例
脳神経外科の麻酔： 7 例

箕面市立病院

研修実施責任者：有村　佳修
専門研修指導医：有村　佳修（麻酔）
上田　洋子（麻酔）
宮田　有香（麻酔）
須田　万里（麻酔）
谷　　大輔（麻酔）
専門医　　蒋　　妍　（麻酔）
認定病院番号：368

特徴：当院は、地域中核病院ならではの幅広い症例と、落ち着いた教育環境を整えた病院です。外科、整形外科、泌尿器科、産婦人科、形成外科、耳鼻科などを、バランスよく学べる環境にあります。一例一例を丁寧に経験でき、指導医との距離も近く、疑問点をその場で解決しながら、確実に力を伸ばせます。オンコール体制も、無理のないように配慮しています

大阪公立大学医学部附属病院

研修実施責任者：森　隆
専門研修指導医：森　隆(麻酔)
松浦　正(麻酔)
末廣浩一(麻酔，　心臓血管外科麻酔、集中治療)
矢部充英(麻酔，ペインクリニック)
舟井優介(麻酔，小児麻酔，心臓血管外科麻酔)
堀耕太郎(麻酔，心臓血管外科麻酔)
藤本陽平(麻酔)
日野秀樹(麻酔，小児麻酔，心臓血管外科麻酔)
辻川翔吾(麻酔，ペインクリニック)
重里　尚(麻酔，　心臓血管外科麻酔，集中治療)
木村　文（麻酔）
認定病院番号：11

特徴：機構専門医研修に必要な全症例を当施設で経験可能です．また，大学院博士課程並びにペインクリニックを併設しておりますので，博士号取得並びにペインクリニック認定医取得と機構専門医取得を両立できます．

2025年度麻酔科管理症例数：6734症例

麻酔科管理全症例数　6734
小児（6歳未満）の麻酔　130
帝王切開術の麻酔　305
心臓血管外科手術の麻酔 343
胸部外科手術の麻酔　438
脳神経外科の麻酔　396

大阪市立総合医療センター

研修実施責任者：山田徳洪

専門研修指導医：山田　徳洪（麻酔）
池田　慈子（麻酔）
嵐　大輔（麻酔）
上田　真美（麻酔）
岡本　なおみ（麻酔）
小林　晶子（麻酔）
嶋津　和宏（麻酔、集中治療）
四宮　沙里（麻酔、集中治療）
片岡　恵里佳（麻酔）
藤間　凡未（麻酔）
中谷　誠二（麻酔）
中新　恭平（集中治療）

麻酔科認定病院番号：686

特徴：地域基幹病院、大学附属病院と連携し、麻酔診療と集中治療を組み合わせた研修を提供し周術期全般を見渡せる高水準な麻酔科専門医を育成します。

全麻酔科管理症例　9836
小児　1387
帝王切開　540
胸部外科　410
心臓血管外科　232
脳神経外科　292

医療法人社団甲友会西宮協立脳神経外科病院

研修実施責任者：長谷川　和彦
専門研修指導医：長谷川　和彦（麻酔，ペインクリニック）
　　トラバリー　ファラ（麻酔）
専門医　　岡本　智史（麻酔）
麻酔科認定病院番号　1890

西宮市および周辺自治体の急性期医療を担っている地域に根差した病院です。
病院名の通り脳神経外科を中心に発展してきた病院で、脳血管障害、脳腫瘍などの開頭手術や血管内手術などが行われています。
また整形外科の手術が盛んに行われており、脊椎手術、人工関節手術などの予定手術に加えて骨折などの外傷手術が非常に多く、神経ブロック等さまざまな手技を経験することが可能です。

2024 年度　麻酔科管理件数 1673 件

5. 専攻医の採用と問い合わせ先

① 採用方法

専攻医に応募する者は，日本専門医機構に定められた方法により，期限までに（2026年９月ごろを予定）志望の研修プログラムに応募する．

② 問い合わせ先

本研修プログラムへの問い合わせは，兵庫医科大学麻酔科専門研修プログラム website，電話，e-mail，郵送のいずれの方法でも可能である．
兵庫医科大学病院　麻酔科・疼痛制御科 植木 隆介　臨床教授
兵庫県西宮市武庫川町1丁目1番1号
TEL 0798-45-6392
E-mail　rueki@ hyo-med.ac.jp
Website　http://hyomed-anesthesiology.info/

6. 麻酔科医資格取得のために研修中に修めるべき知識・技能・態度について

① 専門研修で得られる成果（アウトカム）

麻酔科領域の専門医を目指す専攻医は，4年間の専門研修を修了することで，安全で質の高い周術期医療およびその関連分野の診療を実践し，国民の健康と福祉の増進に寄与することができるようになる．具体的には，専攻医は専門研修を通じて下記の4つの資質を修得した医師となる．

１）十分な麻酔科領域，および麻酔科関連領域の専門知識と技能
２）刻々と変わる臨床現場における，適切な臨床的判断能力，問題解決能力
３）医の倫理に配慮し，診療を行う上での適切な態度，習慣
４）常に進歩する医療・医学に則して，生涯を通じて研鑽を継続する向上心

麻酔科専門研修後には，大学院への進学やサブスペシャリティー領域の専門研修を開始する準備も整っており，専門医取得後もシームレスに次の段階に進み，個々のスキルアップを図ることが出来る．

② 麻酔科専門研修の到達目標

国民に安全な周術期医療を提供できる能力を十分に備えるために，研修期間中に別途資料**麻酔科専攻医研修マニュアル**に定められた専門知識，専門技能，学問的姿勢，医師としての倫理性と社会性に関する到達目標を達成する．

③ 麻酔科専門研修の経験目標

研修期間中に専門医としての十分な知識，技能，態度を備えるために，別途資料**麻酔科専攻医研修マニュアル**に定められた経験すべき疾患・病態，経験すべき診療・検査，経験すべき麻酔症例，学術活動の経験目標を達成する．

このうちの経験症例に関して，原則として研修プログラム外の施設での経験症例は算定できないが，地域医療の維持など特別の目的がある場合に限り，研修プログラム管理委員会が認めた認定病院において卒後臨床研修期間に経験した症例のうち，専門研修指導医が指導した症例に限っては，専門研修の経験症例数として数えることができる．

7. 専門研修方法

別途資料**麻酔科専攻医研修マニュアル**に定められた１）臨床現場での学習，２）臨床現場を離れた学習，３）自己学習により，専門医としてふさわしい水準の知識，技能，態度を修得する．

8. 専門研修中の年次毎の知識・技能・態度の修練プロセス

専攻医は研修カリキュラムに沿って，下記のように専門研修の年次毎の知識・技能・態度の到達目標を達成する．

専門研修１年目

手術麻酔に必要な基本的な手技と専門知識を修得し，ASA１～２度の患者の通常の定時手術に対して，指導医の指導の元，安全に周術期管理を行うことができる．

専門研修２年目

1 年目で修得した技能，知識をさらに発展させ，全身状態の悪い ASA３度の患者の周術期管理や ASA１～２度の緊急手術の周術期管理を，指導医の指導のもと，安全に行うことができる．

専門研修 3 年目

心臓外科手術，胸部外科手術，脳神経外科手術，帝王切開手術，小児手術などを経験し，さまざまな特殊症例の周術期管理を指導医のもと，安全に行うことができる．また，ペインクリニック，集中治療，救急医療など関連領域の臨床に携わり，知識・技能を修得する．

専門研修 4 年目

3 年目の経験をさらに発展させ，さまざまな症例の周術期管理を安全に行うことができる．基本的にトラブルのない症例は一人で周術期管理ができるが，難易度の高い症例，緊急時などは適切に上級医をコールして，患者の安全を守ることができる．

9. 専門研修の評価（自己評価と他者評価）

① 形成的評価

- 研修実績記録 : 専攻医は毎研修年次末に，**専攻医研修実績記録フォーマット**を用いて自らの研修実績を記録する．研修実績記録は各施設の専門研修指導医に渡される．
- 専門研修指導医による評価とフィードバック : 研修実績記録に基づき，専門研修指導医は各専攻医の年次ごとの知識・技能・適切な態度の修得状況を形成的評価し，**研修実績および到達度評価表**，**指導記録フォーマット**によるフィードバックを行う．研修プログラム管理委員会は，各施設における全専攻医の評価を年次ごとに集計し，専攻医の次年次以降の研修内容に反映させる．

② 総括的評価

研修プログラム管理委員会において，専門研修４年次の最終月に，**専攻医研修実績フォーマット**，**研修実績および到達度評価表**，**指導記録フォーマット**をもとに，研修カリキュラムに示されている評価項目と評価基準に基づいて，各専攻医が専門医にふさわしい①専門知識，②専門技能，③医師として備えるべき学問的姿勢，倫理性，社会性，適

性等を修得したかを総合的に評価し，専門研修プログラムを修了するのに相応しい水準に達しているかを判定する．

10. 専門研修プログラムの修了要件

各専攻医が研修カリキュラムに定めた到達目標，経験すべき症例数を達成し，知識，技能，態度が専門医にふさわしい水準にあるかどうかが修了要件である．各施設の研修実施責任者が集まる研修プログラム管理委員会において，研修期間中に行われた形成的評価，総括的評価を元に修了判定が行われる．

11. 専攻医による専門研修指導医および研修プログラムに対する評価

専攻医は，毎年次末に専門研修指導医および研修プログラムに対する評価を行い，研修プログラム管理委員会に提出する．評価を行ったことで，専攻医が不利益を被らないように，研修プログラム統括責任者は，専攻医個人を特定できないような配慮を行う義務がある．

研修プログラム統括管理者は，この評価に基づいて，すべての所属する専攻医に対する適切な研修を担保するために，自律的に研修プログラムの改善を行う義務を有する．

12. 専門研修の休止・中断，研修プログラムの移動

① 専門研修の休止

- 専攻医本人の申し出に基づき，研修プログラム管理委員会が判断を行う．
- 出産あるいは疾病などに伴う 6 ヶ月以内の休止は 1 回までは研修期間に含まれる．
- 妊娠・出産・育児・介護・長期療養・留学・大学院進学など正当な理由がある場合は，連続して 2 年迄休止を認めることとする．休止期間は研修期間に含まれない．研修プログラムの休止回数に制限はなく，休止期間が連続して 2 年を越えていなければ，それまでの研修期間はすべて認められ，通算して 4 年の研修期間を満たせばプログラムを修了したものとみなす．
- 2 年を越えて研修プログラムを休止した場合は，それまでの研修期間は認められない．ただし，地域枠コースを卒業し医師免許を取得した者については，卒後に課せられた義務を果たすために特例扱いとし 2 年以上の休止を認める．

② 専門研修の中断

- 専攻医が専門研修を中断する場合は，研修プログラム管理委員会を通じて日本専門医機構の麻酔科領域研修委員会へ通知をする．
- 専門研修の中断については，専攻医が臨床研修を継続することが困難であると判断した場合，研修プログラム管理委員会から専攻医に対し専門研修の中断を勧告できる．

③ 研修プログラムの移動

- 専攻医は，やむを得ない場合，研修期間中に研修プログラムを移動することができる．その際は移動元，移動先双方の研修プログラム管理委員会を通じて，日本専門医機構の麻酔科領域研修委員会の承認を得る必要がある．麻酔科領域研修委員会は移動をしても当該専攻医が到達目標の達成が見込まれる場合にのみ移動を認める．

13. 地域医療への対応

本研修プログラムの連携施設には，地域医療の中核病院としての宝塚市立病院，三田市民・済生会病院など幅広い連携施設が入っている．医療資源の少ない地域においても安全な手術の施行に際し，適切な知識と技量に裏付けられた麻酔診療の実施は必要不可欠であるため，専攻医は，大病院だけでなく，地域での中小規模の研修連携施設においても一定の期間は麻酔研修を行い，当該地域における麻酔診療のニーズを理解する．

14. 専攻医の就業環境の整備機能（労務管理）

研修期間中に常勤として在籍する研修施設の就業規則に基づき就業することとなります．専攻医の就業環境に関して，各研修施設は労働基準法や医療法を順守することを原則とします．プログラム統括責任者および各施設の研修責任者は専攻医の適切な労働環境（設備，労働時間，当直回数，勤務条件，給与なども含む）の整備に努めるとともに、心身の健康維持に配慮します．

年次評価を行う際，専攻医および専門研修指導医は研修施設に対する評価（Evaluation）も行い，その内容を専門研修プログラム管理委員会に報告する． 就業環境に改善が必要であると判断した場合には、当該施設の施設長、研修責任者に文書で通達・指導します．